

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 11 日現在

機関番号：12501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24730570

研究課題名(和文) 成人の自閉症スペクトラム障害患者に対する認知行動療法の開発および効果研究

研究課題名(英文) Effect of cognitive behavior therapy for adult autism spectrum disorders

研究代表者

大島 郁葉 (Oshima, Fumiyo)

千葉大学・医学(系)研究科(研究院)・特任研究員

研究者番号：40625472

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円、(間接経費) 600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、スキーマ療法の概念である早期不適応的スキーマと発達障害(自閉症スペクトラム障害)の関連性を調べ、認知行動療法の効果を検討した。媒介分析を行った結果、早期不適応的スキーマが媒介すると成人の自閉症スペクトラム障害のメンタルヘルスが損なわれることがわかった。したがって、成人の自閉症スペクトラム障害には早期不適応的スキーマの介入がターゲットとなりうることを示唆された。

研究成果の概要(英文)：Early maladaptive schemas (EMSs) may influence general health status and the development and maintenance of some psychiatric disorders. This study investigated whether early maladaptive schemas act as a mediator in the relationship between autistic traits and general health status in nonclinical adults. The Autism Spectrum Quotient, Young Schema Questionnaire, and General Health Questionnaire were administered to a non-clinical sample of 342 university students. We found a significant relationship between autism spectrum traits and mental health, completely mediated by EMSs. Thus, higher autism spectrum trait scores predicted higher EMSs scores, which in turn predicted poorer mental health. Early maladaptive schemas appear to account for the mental health problems suffered by adults with autism spectrum traits. There are no additional data available.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：認知行動療法 成人 自閉症スペクトラム障害 早期不適応的スキーマ

1. 研究開始当初の背景

自閉症スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder ; ASD)は、自閉症スペクトラムとは、Wing (1996) が提唱したカナーの提唱した自閉症に、アスペルガーの提唱したアスペルガー症候群、さらにその周辺にあるどちらの定義も厳密には満たさない一群を加えた比較的広い概念である。ASD は社会性・コミュニケーション・想像力の 3 領域に障害があることで定義される。

ASD は、これまで児童期の障害であるという認識が中心であったが、近年は、現在もしくは過去に複数の状況にわたって、社会的コミュニケーションと社会関係性の持続的な障害として知られている。それゆえ成人期においても ASD は持続し、学習や親から独立できないことなど様々なネガティブ影響をもたらす (Howlin et al., 2004) 2007 年における英国での成人 ASD の社会的コストは、一人当たり 90000 ポンドを超える (Knapp et al., 2007) 。 Adult Psychiatric Morbidity Survey 2007 (APMS 2007; Brugha et al., 2011)によると、成人の ASD は 1.0% (男性 1.8%, 女性 0.2%) であり、精神疾患の中では罹患率が高い疾病である。ASD 患者はその独特の認知機能からくる過敏性や感覚鈍麻、自己に対するモニター力の弱さから、ストレスに過度にさらされやすく、二次的にうつ病や不安障害などの精神障害も合併しやすい (Hofvander, 2009)。しかしながら、成人の ASD 患者は非常に重篤な症状や社会機能の問題があるにもかかわらず、その体系的な治療は構築されていない。

近年はパーソナリティ障害などの複雑な疾病に対し、スキーマ療法 (Schema Therapy; ST) がエビデンスのある心理療法としている。これは、伝統的な認知行動療法では十分な効果が得られなかった慢性的な性格上の問題を抱える患者を治療するための心理療法である。治療モデルにおいては、認知行動療法、アタッチメント理論、ゲシュタルト療法、対象関係論、構成主義、精神分析などが統合されている。スキーマ療法では、自己の早期不適応的スキーマ (Early Maladaptive Schema ; EMS) の成り立ちを理解し、それらを変容することで、自分特有のストレスに対する反応形態をより適応的にすることが治療目標となる。

スキーマ療法の中核的概念である EMS と PTSD, 双極性障害, 摂食障害, 強迫性障害などの精神疾患との関連が多数報告されている。成人 ASD に対するスキーマ療法の治療効果についての報告および、早期不適応スキーマについての検討はこれまでにない。

2. 研究の目的

本研究は一般成人群を対象に、ASD の特性、早期不適応的スキーマ、精神的健康度の相互関連性を、スキーマ療法のモデルに基づき検討することを目的とした。

研究の仮説としては、以下となった。

(1) 自閉症傾向が高いと精神的健康状態が悪化する

(2) (1)のモデルに対し、早期不適応的スキーマの因子を媒介モデルで投入させると、自閉症スペクトラム傾向と精神的健康状態の関連性がなくなる (つまり、自閉症傾向と精神的健康状態には早期不適応的スキーマが介在している)

3. 研究の方法

(1) 自閉症的傾向と早期不適応的スキーマと精神的健康度との相互関連性について

参加者:

一般健常者 350 名 (女性 238 名, 男性 112 名)であった。

2011~12 年間でリクルートおよび調査を行った。

除外基準: 過去に精神疾患に罹患した者

最終的な参加者: 342 名 (女性 233 名, 男性 109 名, 18 ~55 歳, 平均年齢 21.36 歳, 標準偏差 5.17 歳)となった。

(2) 自閉症スペクトラム患者と一般群における早期不適応的スキーマの差異および自閉症スペクトラム障害患者の早期不適応スキーマについて

2011~12 年の間に複数の精神科クリニックにてリクルートを行い、診断された自閉症スペクトラム障害群に調査を依頼した。年齢と性別で自閉症スペクトラム群と一般群のマッチングを行った。したがって、最終的な参加者は、自閉症スペクトラム障害群 48 名、一般群 86 名となった。

なお、全ての参加者には研究主旨を口頭と書面で説明し、同意を得た上で調査を行った。

質問紙:

ヤングスキーマ質問紙

(Young Schema Questionnaire ; YSQ)
 (Young ,1998)
 90 問の自記式質問紙 .18 種類のスキーマを明らかにする。
 本研究の日本語版質問紙は Cronbach の係数が 0.81 あり、信頼性は確認された。
 自閉症スペクトラム指数
 (Autism-Spectrum Quotient; AQ)
 (Baron-Cohen, 2001).
 50 問の自記式質問紙 . 自閉症傾向が 5 パターンに分かれて測定可能である
 GHQ 精神健康調査
 (General Health Questionnaire ; GHQ-28)(McDowell and Newell, 1996).
 28 問の自記式質問紙 . 抑うつ、不安、社会的活動障害、身体症状の 4 因子から精神的健康状態を測定する

また、フェイスシートをつけて対象者の属性を調べた。

統計：媒介分析 (Baron and Kenny ,1986) を用いた . 媒介分析 (mediation analysis , Baron and Kenny ,1986) とは、心理学の領域で多用される分析の方法である . ある独立変数 X と従属変数 Y との間を、媒介変数 M (mediator) が介在していることを示したモデル (媒介モデル ; mediation model) を検討する分析として知られている (図 1) .

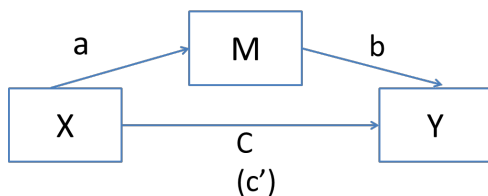


図 1 媒介分析の概念モデル

4 . 研究成果

(1)自閉症的傾向と早期不適応的スキーマと精神的健康度との相互関連性について

ASD 傾向はメンタルヘルスに影響を及ぼしやすく、さらに、ASD 傾向よりも早期不適応的スキーマを媒介させたほうが、有意に精神的健康度に影響があるということが明らかになった (図 2) .

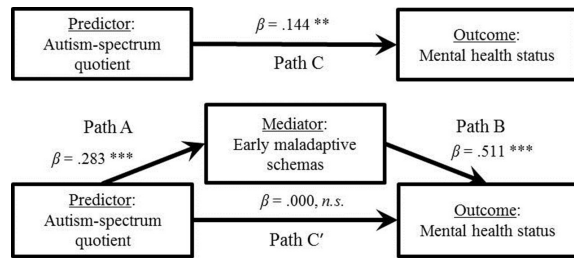


図 2 媒介分析の結果

(2)自閉症スペクトラム患者と一般群における早期不適応的スキーマの差異および自閉症スペクトラム障害患者の早期不適応的スキーマの特徴について

自閉症スペクトラム群および一般群の属性、自閉症傾向、精神的健康度を以下の表 1 に示した。

Table 1. Self-reported clinical profile of control and patient groups

	Controls (n = 86)	Patients (n = 48)
Age (mean ± SD)	30.21 ± 10.09	29.71 ± 7.78
Sex (% female)	54.65%	43.75%
AQ score (mean ± SD)	18.85 ± 6.19	33.23 ± 6.39*
GHQ score (mean ± SD)	8.86 ± 6.82	16.48 ± 6.36*

Note. AQ = autism-spectrum quotient, GHQ = General Health Questionnaire. *p < .01.

表 1 患者群と健常群の差異

さらに、両群における早期不適応スキーマの差異を表 2 に示した。

Table 2. Relationships between perceived early maladaptive schema scores and ASD diagnosis.

maladaptive schema	Mean (±standard deviation)		t	df	p
	Controls (n = 86)	Patients (n = 48)			
Emotional deprivation	9.33 (±4.56)	15.67 (±6.20)	6.21	75.80	<.001
Mistrust/abuse	12.87 (±4.81)	18.33 (±5.49)	5.99	132	<.001
Emotional isolation/alienation	12.80 (±5.12)	21.81 (±5.80)	9.31	132	<.001
Punitiveness/shame	13.03 (±5.37)	18.63 (±5.88)	5.58	132	<.001
Abandonment	13.23 (±5.47)	17.48 (±6.25)	4.09	132	<.001
Entitlement	13.03 (±5.37)	21.71 (±5.71)	8.76	132	<.001
Independence/incompetence	12.43 (±4.43)	19.04 (±5.77)	6.89	78.33	<.001
Vulnerability to harm or illness	10.80 (±4.72)	17.96 (±6.02)	7.61	132	<.001
Enmeshment/undeveloped self	10.71 (±3.53)	12.73 (±4.49)	2.69	79.92	<.001
Inefficient self-control/self-discipline	12.31 (±3.88)	18.69 (±5.17)	7.46	77.01	<.001
Exaggerated sense of entitlement/grandiosity	11.26 (±2.99)	13.85 (±3.87)	4.03	78.73	<.001
Self-sacrifice	12.13 (±3.85)	12.94 (±5.54)	.90	72.85	.372
Subjugation	10.60 (±3.63)	14.25 (±4.23)	5.25	132	<.001
Approval-seeking/recognition-seeking	14.02 (±4.16)	16.40 (±6.79)	2.20	67.06	.031

さらに、自閉症スペクトラム群における早期不適応的スキーマの特性が、「情緒的はく奪スキーマ」「災害や疾病に対する脆弱性スキーマ」「不十分な自己コントロールスキーマ」の3つであることがロジスティック解析により明らかとなった。

自閉症スペクトラム障害群は健常群よりもほとんどの早期不適応的スキーマが有意に高かった。したがって、自閉症スペクトラム障害は健常群に比べ、その生きづらさや家庭環境から早期不適応スキーマが増大しやすいと可能性が示された。

「不十分な自己コントロール」「情緒的はく奪」「災害や疾病に対する脆弱性」が ASD 群において特徴的なスキーマであることが明らかとなった。これは、社会性・想像力・コミュニケーションの障害との関連が示唆されるが、より細かな特性と早期不適応的スキーマとの関連を見ていく必要がある。

まとめ

自閉症スペクトラム障害傾向の精神的健康状態は早期不適応スキーマが媒介していることが明らかになった。また、自閉症スペクトラム障害患者は健常群に比べ、有意に高い早期不適応的スキーマがあり、その中でも特徴的な早期不適応的スキーマがあることが明らかになった。

したがって、成人の自閉症スペクトラム障害患者にスキーマ療法を行う場合には、ASD と関連する早期不適応的スキーマを理解したうえでの介入が有効である可能性が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件) 査読あり

Fumiyo Oshima, Hirofumi Nishinaka, Kazunori Iwasa, Emi Ito, Eiji Shimizu. Autism spectrum traits in adults affect mental health status via early maladaptive schemas. Psychology Research 5 (4), 2014, in press.

[学会発表](計 1件)

Fumiyo Oshima, Hirofumi Nishinaka, Kazunori Iwasa, Emi Ito, Eiji Shimizu. Autism spectrum traits in adults affect mental health status via early maladaptive schemas. Asian CBT Congress, 2013, Tokyo.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

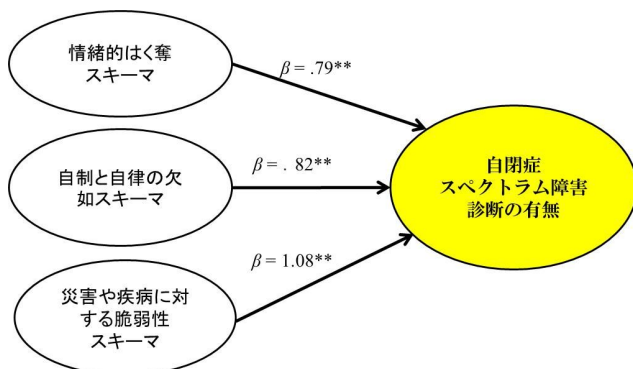
大島 郁葉 (OSHIMA, Fumiyo)

千葉大学・大学院医学研究院・特任研

Table Summary of Logistic Regression Analysis for Predictors of either ASD Participants or Healthy Controls

Independent Variables	B	SE	β	z	Odds Ratio	p
Emotional Deprivation	.132	.050	.793	2.587	1.140	.010
Vulnerability to Harm or Illness	.142	.053	.886	2.693	1.152	.007
Insufficient Self-Control/Self-Discipline	.203	.059	1.087	3.456	1.227	<.001
Age	.062	.030	.577	2.073	1.063	.038

Note. The AIC-based Stepwise variable Selection excluded 12 of 16 independent variables including Abandonment, Mistrust/Abuse, Defectiveness/Shame, Enmeshment/Undeveloped Self Subjugation, Self-Sacrifice, Emotional Inhibition, Unrelenting Standards/Hypercriticalness, Entitlement/Grandiosity, Approval-Seeking/Recognition-Seeking, Punitiveness, and sex.



究員

研究者番号：40625472